

# JAL愛媛争議団を支える会

## ニュース



勝利解決の日まで  
たたかう

発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛争議団を支える会  
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内  
松山市三番町8-10-2



## 私宅 応援

します



## 暮らしの中で、たたかう友を想う

西予市在住 水谷 漣

10月17日(木)5時起床 漂う朝霧の中、我が家の小さなウッドデッキで優しい音楽を聞きながら、「不味いコーヒー」を飲む、時おり東の方からヒンヤリとした風が頬を撫でて西の方に流れていく、こんな時が私にとって「至福」の時間です。

東の空が明るくなるまでウッドデッキで過ごし、明るくなると、近くのコンビニまでのウォーキング、道沿いには耕作放棄地がこの頃増えてきた。そこにブタクサの群生がやたらと目立ち、将来の農業(食料)が心配です。往復4000歩、私にとってはちょうどいい運動量です。

ウォーキングが終わると、朝食の準備。準備と言っても「ヨーグルトと果実」と簡単なレシピ。

主にバナナとりんご、季節にでるみかんやイチゴなどを適当な大きさに切り、手製の小皿に盛り付ける。その上にヨーグルト、オートミール、きな粉をのせ、最後にアマニオイルと蜂蜜をたらす。長く続いている我が家の朝食の定番、妻も満足な様子です。

さて、大池ひとみさんと初めて出会ったのはいつ頃だったのか思い出せない。いつの間にか気軽に話せる間柄になっていました。大池ひとみさんは明るい人柄で、話のうまい方。聞いていて人の心を引き付けている。そんな彼女からいつも元気をもらっている私です。

これまでも、これからも、家族、友、皆で応援しています。

がんばれ！ 大池ひとみさん

## 皆さんの応援を背に、前を向いて

いつも変わらぬご支援を本当にありがとうございます。心から感謝いたします。2024年もあと一カ月とちよつとで終わります。毎年「今年中には解決します」と宣言しつつ14年。JHUの仲間が全員還暦を過ぎ、ご支援いただいている皆様も平等に歳を重ねていらつしやいます。早く解放させてあげた

かと思つてはいるのですが、遅々として進まない会社との交渉。いつまで続くのやら、こればかりは誰にもわかりません。皆さんの応援を背に、この先も諦めずに前を向いて進んでまいります。引き続き、ご自分の体力に合わせたご支援をどうぞよろしくお願い致します。

「愛媛支える会ニュース」は、我々客室乗務員が日頃どんな生活をしているのか、どういう仕事をしていたのか、あまり馴染みのない職業を身近に感じても、

らうために、近況や日頃感じていることを知らせてほしいというリクエストにお応えし、交替で文章をしたためたのがきっかけでした。その数も今回で74号。寄せていただいた応援メッセージは72。最終したあかつきには、これを装丁して残したいねと話しています。我々争議団と応援してくださっている方々の血と涙の結晶ですから。「ああ、こんなことあったよなあ」と笑って思い出せる日がくるまで頑張り

(裏面に続く)

JAL被解雇者労働組合  
西予市在住 大池ひとみ

前置きが長くなりましたが、今回は日本では絶対にならないであろうという体験のお話です。解雇されて、JALからは1円のお給料ももらえず路頭に放り出されたわけですから、何か稼ぐ方法をと選んだ仕事が旅行に付き添う添乗員でした。



当時私は、月2回のヨーロッパ勤務という契約で、それなりに楽しく仕事をさせていただいていました。あるとき、日本からローマに降り立ち、バスでミラノまで移動しながら観光地を回る10日間のツアーの添乗を任されました。ヴェネチアのホテルに着いたあと、ドライバーさんが「2ユーロ貸してほしい」と声をかけてきました。仕事中は、お食事もすべて賄ってもらえるし、お金を使うことはないはずなのに何に使うのだろう。しかも2ユーロなんて大した金額じゃないし、どうしたものかと思案した結果、私は丁寧に断りをしました。彼はあっさり引き下がり、なんだ、それほどひどく迫ったことでもないのかと胸をなでおろしました。

### たった1枚のコピーで解雇

観光でヴェネチアに入るときには、関所みたいなところがあって入島料を支払わなければなりません。ドライバーが関所に

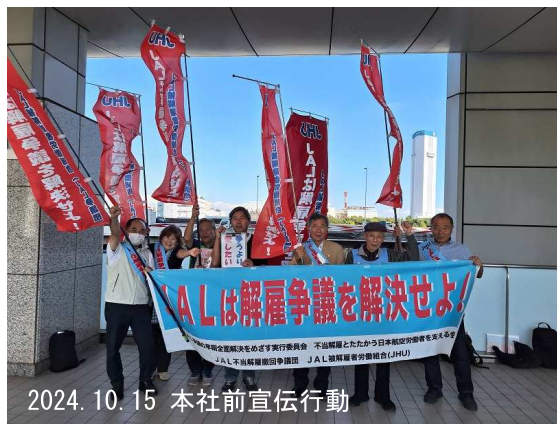
出向き、証明書をもたらってきてくれます。2日連続でヴェネチアに渡ったので書類は2通です。ところがドライバーから受け取った書類は全く同じものが2枚、たぶん1枚はコピーであろうと察しがつきました。日付も番号も同じなのです。

「これ、コピーじゃないの？」と彼に聞いたですと、「いや、別々にもらったものだ」と言い張ります。このまま日本に持ち帰って提出したら、私の落ち度になるのは必至です。困った私は現地のツアー会社に連絡し、これで良いのか確認するようお願いしました。直に連絡があり、「これはコピーだ。あとのことはこちらで処理するから」と言われ、ホットしたのも束の間、ドライバーが「あんた、会社に連絡したんだね」と声をかけてきました。「私はよくわからなかったたので、確認の電話をしただけよ」と答えると「俺はクビになった」と。書類1枚、金額にして数ユーロか数十ユーロをごまかしただけで、即日解雇???

彼は半泣きの顔で、「俺は、ここから自費でローマまで帰らないといけない」と言うのです。「2ユーロ貸して」というくらいお金に困っていた彼が、ヴェネチアからローマまでの旅費を工面できるのか? 「お金、大丈夫?」と聞いたら、「シー(イタリア語でイエス)。」と力なく答えた彼。今考えれば、50ユーロくらいお餞別でもあげればよかつたかなと思うけれど、その時はそんな余裕もなく、「気を付けて帰ってね。次の仕事、早く見つかるといいね」というのが精いっぱいでした。

私はいけないことをしてしまつたのか? まさか、たった1枚のコピーで解雇とは?? たぶん日本では、「これから二

度とこういうことはしないように」と厳重注意を受け、始末書を書いて終わりだと思ふのですが、あちらでは、信用にかかわる問題での違反は即解雇というシビアな対応なのです。そう考えると、日本は甘くて、なあなあ文化がはびこっていると考えるを得ません。そのくらい厳しく仕事に向き合いたいものです。でも、逆に言えば、日本はそれだけ人を信じられる社会であるとも言えますが、どうなのでしょう・・・。



2024. 10. 15 本社前宣伝行動

15日、JAL本社前で鳥取社長に向かつて訴えたことは、「私たちは経験という大事な財産をたくさん持っている、(東亜国内航空出身で国際線を知らない)鳥取社長にはぜひ会って話を聞いてほしい、職場を回って生の声を聞いてほしい」、そして、機内誌に寄せている幼い頃のいちご狩りの体験を『何物にも代え難い喜び』と表現しているあなたの言葉を借りて『何物にも代え難い苦しみ』を14年味わっている我々の気持ちに少しでも寄り添ってほしいと。伝わったかなあ、伝わらないだろうなあ。